

日本の第一人者を出している。どうしてそういういい教育ができたか。全寮制で充実した寮生活において、教官と学生、また学生同志のセッサタクマ（切磋琢磨）ができたこと、学校での講義時間を少なくして、自分で考え勉強する時間が多くしてあったことなどにもよると思いますが、いま一つ大事なことは宗教教育が行なわれたということだと思います。近頃は技術者が人間性を失わないために科学の歴史を教えろ、ということをしきりにいう人があります。これはヒューマニティというものを大事にする、正しい世界観で人間喪失を防ぐということがおの目的ではないかと思いますが、そういうためには宗教は非常に大きな役目をすると思います。

現在宗教なんてばからしいことだ、神なんてあるもの

かという人が多いのですけれども、しかし私は現在の世界的な混乱の原因は、権威の喪失、つきつめていうと宗教の喪失にあるのではないかと思います。欧米でも宗教は失われつつあり、いまの時点で無視されているように見えますけれども、長い歴史の流れから見て、はたしてそれが間違っていないかどうか、これはわれわれ十分考えてみる値打ちのあることだと思います。たとえ宗教というものを度外視しても、やはり人間性を失わないということ、それが非常に必要なことではないか と思います。そのためにせめて人間的な接触を深めることをしたいものと思います。教官と学生との人間的な接触が深められ、大学が研究の場である前に、教育の場であるようになることを心から願うものであります。

学会新刊図書紹介

土質基礎工学ライブラリー第5巻 建設工事における土質工学の実用例

土質工学会編・発行

A 5 判 本文 376 ページ布クロス上製本

定 価 1 300 円 会員特価 1 000 円

発売日 昭和 44 年 3 月 24 日

本書は、まえがきにもあるとおり、「現代土質工学の当面する最大課題の一つである、理論・設計・施工間のみぞをいかにして埋めてゆくか」に対処すべく企画されたものであります。

したがって、以下に示す9編の報告は、いずれもこの課題に対して、土と基礎に関する理論・設計・施工の貴重な経験をもとに、実際の建設工事その他において、土質工学がどのように応用され、どのような試験が行なわれ、さらに設計と施工との間にどのような関係があり、どのように解決したかを平易に解説したものであります。

日常これら建設工事その他に関連ある仕事に従事されておられる技術者、設計者さらには研究者の方々のご利用をおすすめいたします。

目次			シールドトンネル	白石俊多
第1章	タンク基礎	尾股敬三	第7章	荻田および東郷アースダム
第2章	大口径PCパイプ	津野和男		山口柏樹・大根義男
第3章	横浜本牧ふ頭の岸壁基礎	右下禎野	第8章	建築工事の山留め 古藤田喜久雄・田中修身
第4章	大分市荏隈浄水場基礎	川崎浩司	第9章	鹿児島本線複線化工事の切り取りノリ面
第5章	八郎潟の堤防と基礎	藤野欣一・江崎要		町田富士夫・諸岡 董・宮川房夫
第6章	軟弱地盤におけるケーソンおよび			